

様式第6号

政務活動費収支報告等（第7条第1項関係）

令和5年4月10日

清瀬市議会議長

青藤 実 殿

会派名 清瀬みらい

代表者名 城野けんいち

(署名又は記名押印)

令和4年度政務活動費収支報告について

清瀬市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、  
別紙のとおり令和4年度政務活動費収支報告書を提出します。



令和4年度政務活動費収支報告書

会派名 清瀬みらい

1 収 入  
政務活動費 120,000 円

2 支 出

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	51,910	
研 修 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
人 件 費		
事 務 所 費		

3 残 額 68,090 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

(参 考)

清瀬市議会政務活動費収入支出整理簿

会 派 名	清瀬みらい
経理責任者氏名	城野けんいち

令和 4 年度

単位：円

番号	月日	項 目	収入	支出	残額
		政務活動費	120,000	0	120,000
1	2022年11月7日	調査研究費(会派行政視察・交通費)		490	119,510
2	2022年11月8日	調査研究費(会派行政視察・交通費)		1,520	117,990
3	2022年11月8日	調査研究費(会派行政視察・交通費・タクシー)		5,960	112,030
4	2022年11月21日	調査研究費(会派行政視察・宿泊費)		43,500	68,530
5	2022年11月21日	調査研究費(会派行政視察・宿泊費振込手数料)		440	68,090
			収入計	支出計	残額計
			120,000	51,910	68,090

会派名	清瀬みらい
経理責任者名	城野けんいち

視察先：兵庫県

加古川市 / 神戸市

日付	摘要	単価	人数	費用	領収書No.	備考
2022年11月7日	(乗車券) 清瀬⇒東京	490	1	490		
	(乗車券) 東京⇄加古川	17,620	1	17,620	①	往復分
	(新幹線特急券) 東京⇒西明石	5,720	1	5,720	①	
	加古川⇄加古川市役所					無料送迎バス(往復)
	(乗車券) 加古川⇒三ノ宮					
	ホテル宿泊費 (神戸三宮東急REIホテル)	13,750	1	13,750	①	
2022年11月8日	(乗車券) 三ノ宮⇒西神中央	410	1	410		
	(乗車券) 西神中央⇒神戸楽農生活センター	2,740	1	2,740	②	タクシー乗車料金※1

	(乗車券) 神戸楽農生活センター⇒西神中央	3,220	1	3,220	③	タクシー乗車料金※1
	(乗車券) 西神中央⇒三ノ宮	410	1	410		
	神戸クリエイティブデザインセンター					三ノ宮より徒歩往復
	(乗車券) 三ノ宮⇒新神戸駅	210	1	210		
	(新幹線特急券) 新神戸⇒東京	5,720	1	5,720	①	
	(乗車券) 東京⇒清瀬	490	1	490		
	企画料金	770	1	770	①	旅行業務取扱代金
	出精値引	-80	1	-80	①	旅行業務取扱代金
	振込手数料	440	1	440	④	みずほ銀行電信振込
	計	51,910		51,910		

※1 タクシー乗車料金について、乗車のタクシー会社および往路と復路でルートが異なったことで乗車料金が異なっている

①

# 領収証

DB-00015735  
発行日 2022/11/21

清瀬みらい 様

印紙税申告納  
付につき名古屋中村  
税務署承認済

**金額** **¥43,500.-**

上記金額を正に領収いたしました  
但し、交通費・宿泊代として

- 現金
- 小切手
- 振込 43,500 円
- クレジット
- その他( )

名鉄観光サービス株式会社  
(本社所在地)  
名古屋市中村区名駅南二丁目14番19号  
(住友生命名古屋ビル8階)

領収者印、責任者印のないもの及び訂正したものは無効です。

責任者印	領収者印

DB-060360

②

# 領収証

No003

車両番号 1465号  
2022年11月08日  
毎度ご乗車ありがとうございます。  
(現金・チケット・クーポン・カード)  
乗車料金 ¥2740円  
運賃料金計 ¥2740円  
言計 2740円



神戸市西区白水2丁目16-16  
西神交通株式会社  
☎(078)975-3030

③

# 領収証

2022年11月08日  
無線番号 14号  
乗車料金 ¥3220円  
運賃料金計 ¥3220円

言計 3220円  
神戸市西区枝吉5-141-1

神明タカギ株式会社

☎ 078-928-8282

④

MIZUHO みずほATMコーナー | ご利用明細票

ご利用ありがとうございます。内容をご確認のうえ、必ずお持ち帰りください。 みずほ銀行

お取引日	振込・振替先口座振替
2022-11--4	
振込先	お取引口座番号
*****	*****
振込手数料	お取引金額
**440**	*****43,500
お取引内容	お取引後残高
電信振込	*****
振替	利用手数料
1418****-073100-20297632	078****60
清瀬	
みずほマイレージクラブのお取引条件とかわいい特典が変わりました。	
みずほ銀行 第五集中支店 メイツカンゴウサービズ(カ) 様	
キヨセンキ 様 キヨセミライ 様	
発信番号 81B04073100003P	
5414	0010109849

裏面へみずほからのお知らせがあります。

# 請求書

発行日 2022年10月28日

予約番号 DB-060360

請求番号 DB-00053463

名鉄観光サービス株式会社

新宿支店

〒160-0023

東京都新宿区西新宿1丁目1-9番8号

新東京ビル内


TEL:03-3343-0631 FAX:03-3348-2934


清瀬みらい 御中

**ご請求額 ¥43,500.-**

毎度お引立ていただきありがとうございます。  
下記の通りご請求申し上げます。

内容 視察/兵庫県

責任者  


担当者  


利用日	項目名	内容	単位	単価	数量	金額
22/11/07	基本旅費			43,500	1	43,500 ◎
		◎10%対象				( 43,500)

お振り込みは、下記口座へ2022年10月31日までにお願います。  
振込手数料はお客様ご負担にてお願いいたします。

合計	(A)	43,500
ご入金済額	(B)	0
今回請求額	(A)-(B)	43,500

振込先	三菱UFJ銀行 新東京支店 普通	3318333
	みずほ銀行 第五集中支店 普通	0170333
	三井住友銀行 東海支店 普通	2335333
	メイテツカンコウサービス (カ)	

備考	
----	--





様式第8号

政務活動報告書（調査研究）（13.（1）、ウ、②関係）

令和 5年 4月 10日

清瀬市議会議長 様

会派名 清瀬みらい  
氏名 城野けんいち

政務活動報告書（調査研究）

清瀬市議会政務活動費により当会派で実施した（調査研究）について、政務活動費運用ガイドラインの規定に基づき報告いたします。

1 視察先及び視察事項（事業名等）

(1) 市町村名： 兵庫県加古川市

事業名 加古川市スマートシティ構想について

(2) 市町村名： 兵庫県神戸市

事業名 兵庫県楽農生活センター

2 視察日時 令和 4年 11月 7日から 11月 8日（ 2日間）  
時 分から 時 分まで

3 参加議員数 議員 1 人 議員名 城野けんいち

4 経 費 51,910 円（※収支報告書と一致）

5 調査報告 別紙のとおり

※収支報告書提出時に添付すること。

## 清瀬市議会 清瀬みらい 会派行政視察報告

日付 2022年11月7日、11月8日

場所 兵庫県 加古川市 / 神戸市

参加 城野けんいち

清瀬市議会、清瀬みらいとして、清瀬自民クラブと合同で兵庫県への会派行政視察を行った。加古川市のスマートシティ、自治体 DX による市民協働のまちづくり、防犯安全対策事業、神戸市の農業ならびに産業振興、また文化施策について、市政における問題意識を共有したことから、会派合同による行政視察を実施した。

兵庫県加古川市：加古川市役所

視察テーマ：スマートシティについて

2022年11月7日 13時30分～15時30分

加古川市のスマートシティについて、人口減少・少子高齢時代、社会的な問題として超高齢化社会となることを見据え、行政職員の希望者数の減少や行政サービスの維持が課題となるため、手段としてのデジタル化が必要不可欠になるという判断で実行している。また高齢化よりも少子化のほうが課題であるという認識のもと、何より少子化が進むと社会課題が深刻化していき、現状の事務では担えないことが出てくる。現状の課題をデジタル化によって解決していくことが目的であり、加古川市もスマートシティだけを掲げていたわけではないということであった。主な取り組みについては、以下の3点が挙げられる。

### 1. 見守りカメラ

まず初めに、なぜ見守りカメラを置いたのかについて、説明する必要がある。加古川市では刑法犯認知件数が多かったことが挙げられる。ベッドタウンとしての課題があり、安心して暮らすことについて問題があり、また観光地ではないため、ネガティブ（悪いイメージ）だけ先行していたことが背景であった。当然のことながら、安全な場所でなければ住みたいと思えないということから、加古川市長が自らタウンミーティングを開催して、市民の合意形成を図り、見守りカメラの導入に踏み切ったということである。

現在、加古川市に設置されている見守りカメラは1475台、実際に設置および運用する前に、プライバシー配慮、市民や警察や犯罪心理学者と協議して設置場所を検討していたとのこと。犯罪を抑止という観点から、どこに設置しているか明示している。また認知症高齢者が徘徊などで行方不明事案への対策にも寄与している。

見守りカメラの特徴・性能については、2週間の保存、事件が発生した場合など、必要に

応じてネットワークを通じて情報を取りに行くシステム運用をしている。開示は 2 週間までに警察からの捜査などの要請、令状がある場合のみとしているため、決して「監視」ではないということ、また特別法令がないため条例を制定している。ごみの不法投棄について町内会長から情報開示請求があっても不開示であり、運用は厳重な取り扱いとなっているようである。警察署でも人員が足りてない状況があり、そうした面でも地域の防犯状況に課題があった加古川市であるが、見守りカメラの導入により、刑法犯罪認知件数が設置前から半減しており、その効果が認められており、同時に地域住民の防犯意識の向上につながっている（スマートシティの市民認知は 10%程度、見守りカメラは 70%以上）。

この見守りカメラは、通学路を中心に設置しており、それ以外の場所には設置をしていない。その他の場所には移動式検知器による見守り、公用車（265 台）、郵便車両（176 台）、見守り BLE タグ、検知精度の差があるにしても電池が 1 年持つものである。地域包括支援センターなどで対応し、200 円から 500 円程度の費用で認知症高齢者を見守る事業である。市費で対応しており、6 割以上の保護者やご家族から「大変よかった」、「よかった」と評価を得ているとのことであった。

## 2. Decidim の導入

加古川市として、本来はスマートシティ構想を作る予定はなかった。デジタル技術の進歩が早いいため作っても仕方ないという考えからであったが、総務省のスマートシティ事業、国のほうからプッシュもあったことにより、構想に着手した経緯。2020 年頃から、ワーキンググループを各課から集めて立ち上げ、総合計画と照らし合わせながら部局間で調整したが、行政 DX の話ばかり、自分たちの執務環境の話が多かった。そこで、市民の皆さんにとってデジタル化がどうなのか、何をもってスマートシティなのか、こうしたところから「Code for Japan」と協定締結し、市民にとってデジタル化がどうなのか、意見やアイデア収集を始めることにしたということであった。

オープンソースのプラットフォームとして国内初導入（バルセロナ発祥、市民同士が議論する文化がある）であり、ブラックボックスにならないように、すべてオープンにして、議論の過程が可視化されている状態、オンラインとオフラインの相互連携、10代、20代が40%、若い世代が参画している状況にある。少しでも市政に関心を持っていただく、地域に関心を持ってもらう、参加できない層の市民がまちづくりに参画してもらうことが目的である。パブリックコメントとの違いとしては、行政側が出した提案について、市民が意見を言って、そのままのケースが多いが、市民側が出した提案について、市民が意見を言うこと、議論をする機会もある。Decidim のメリットは、市民同士も含めてやり取りが見える状態で、期間中に何度でもやり取りができること。また公開されているところに属性が見えないため、フラットな状況であり、1300 人くらいのユーザーによるやり取りがなされている。高齢者の意見に、高校生が意見をすることもするなど、様々な属性の意見が見えるようになる。

### 3. 窓口業務改革

行政手続きのオンライン申請、職員提案制度での提案、窓口業務改革推進係の設置。スマート申請、スマートナビ、窓口状況混雑ナビの導入、フロアサインの改善を実施した。令和4年8月、職員による窓口体験調査を実施し、市民課を中心に書かない手続きの推進を図っており、大変満足、満足が7割という市民の声である。

デジタルデバインドではなく、デジタルに対応できる人はデジタルで申請してもらおう。何でもかんでもデジタル化すればよいわけではなく、デジタル化に対応できない人にどのように手厚くできるのかという視点で行っている。職員の育成について、データ利活用人材の育成、どのように仕事が最適化できるのか、自分のたちの業務フローを可視化して、どこに課題があるのか、どういう手順で明確にしていくことで改善を図る。同期同士の研修ではなくて、データアカデミー研修を立ち上げ、少数精鋭で研修、階層別の研修、課題解決力の向上行政職員のデジタル研修を推進、業務効率の最大化を目指している。

便利なまちが本当に必要なのか、便利だからしあわせで豊かであるか、そうではなく、デジタルはあくまでも手段のひとつであるということが重要である。例えばGIGAスクール構想では、すべての小中学校の教室に光回線を導入するなどしたが、スマートシティというのは単なる言葉に過ぎず、まずはそれぞれの地域における課題をどのように解決していくのか。何が必要であるのか、そこから検討することが大切であり、スマートシティを目指すという発想ではないことは、ご理解いただきたいということであった。

デジタル田園都市国家構想の取り組み、清瀬市でも必要な取り組みになると考える。LWC指標の構成＝「心」＋「行動」＋「生活環境」が重要であることを再認識した。

さて、加古川市のスマートシティへの課題について、質疑を行った。例えばDecidimの導入について、1300人のユーザーがいるということであるが、この属性について、市外の方も含めて状況を伺うと、実際は100人程度のアクティブユーザーということで、まだまだ課題があるのだろうと感じた。様々な議論が生まれることは大切で、特に子育て世代の議論を学生たちや若者たちにしてもらえる場所は貴重である。今も行政と地域の距離が遠いのが問題であり、地域の中に入っていかなければならないのは、どこの自治体でもハードルがあるのだと思われる。この市民協働や市民参画を無理やりしても意味がないため、機運の醸成や幅広い層への市民の関心を高める取り組みは引き続き行う必要があると考える。

見守りカメラについては、1台30万円程度ということで、コンサルティングも含めて5億円から6億円の予算が必要となる。ランニングコストは6000万円前後、マネタイズできないから行政の役割ではないかということで、加古川市では施策としている。予算は地方創生と市債で対応、安心安全のまちづくりを実現するにはプライスレスな取り組みであると

いう認識であった。カメラの性能をどうするのか、入れ替え時期など、今後どのようにしていくのか課題がある。5年から6年の期間、保守点検も必要とのこと。市長自ら、市民に説明会を実施していくことで、市民から賛成の声が9割とのこと。これも住民との合意形成をしっかりと図った結果であるということであった。こうした行政の取り組みを市民にご理解いただくための機会や姿勢は、とても大切なことであると確認した。

兵庫県神戸市：兵庫楽農生活センター

視察テーマ：農業と商業振興について

2022年11月8日 10時～12時

兵庫楽農生活センターが開設するに至るまでの問題意識としては、日本における食料供給率の低下、過去最低水準に低迷をしている現状、そうした中で兵庫県産の野菜を普及促進し、誰もが気軽に楽しむことができる環境の整備を目的とした。

事業における3つの柱、①食を楽しむ、②農を体験する、③農を学びを实践する、この3点に基づいて事業が実施されている。センターの役割は、楽農生活の推進・普及、推進拠点として野菜などの栽培収穫、里山体験、食体験、地産地消等を通じて楽農生活の魅力の体験と普及に向けた情報発信、農業担い手の育成。また親子農業体験教室、親子で農業体験（稲作）、田植え、コウノトリ育む農法による水稻栽培・収穫体験、神出学園との連携事業、不登校児童などに農業を体験、ぶどうの学校、梅の収穫体験、野菜栽培・収穫体験、農機具展示、里山再生塾を行っている。

楽農学校の取り組みについて、生きがい農業コース、就農コースを実施し、修了者のうち8割以上の研修生が就農している。年齢層は30代から50代までが多い。その理由は、国の補助対象になっていることも挙げられる。新規就農者向けの補助金などもあるが、準備資金については十分精査が必要で、21名の研修者のうち、4名が申請をする状況となっている。有機農業塾では、家庭菜園等で安全な野菜の作り方を学ぶなどし、ヨガ体験など新しい取り組みも導入して、楽農のすそ野を広げる取り組みも展開している。

主な来園者については、レストランは女性や夫婦が多い傾向にある。楽農センターとしては親子なども多い傾向にある。学校との連携はしていないが、親子農業体験教室などを通じて、子どもたちにも農業を体験してもらえる機会を作っている。また加工品の販売について園内や直売所以外でも販路を拡大している。課題としては、子どもの遊び場がほしいという利用者からの要望があり、今後は宿泊施設など、ホテルとの連携も模索したいとしている。またキャンプ場という声もあるが、職員体制上、またニーズも把握できず、具体的に実現する段階ではなく、あくまでも日帰りで農業体験施設として事業を推進している。

清瀬市では都市農業ではあるが、基幹産業たる農業、また農ある風景を守りつつ、こうした取り組みを参考にしながら、商業振興や新たな魅力の創出に努めていく必要がある。例えば、きよはちをはじめ、エコプロモーションも発展させていくと、より具体的な形で民間との連携や事業の展開などが見えてくると考える。清瀬市は観光地にはならずとも、市内にある限られたリソースで、どれだけ自主財源を確保できるか、また市内経済の活性化は、指定管理などの民間事業者や市民との協働によるまちづくりなど、これまで以上に踏み込んだ形で行政と民間の連携を模索する必要もあると感じている。市民の買い物利便性の向上はもちろん、市外からも何度も訪れていただくような挑戦的な取り組みは、引き続き模索していくことが喫緊の課題であると認識をした。

兵庫県神戸市：デザイン・クリエイティブセンター神戸

視察テーマ：文化のまちづくりについて

2022年11月8日 13時～14時

今回の行政視察、最後に「デザイン・クリエイティブセンター神戸（愛称：KIITO/キイト）」に伺う。神戸市の文化拠点のひとつである。行政はクリエイティブなことに対する理解を含め、得意ではなく足りないという現実があり、これほどこの自治体でも同じような傾向だと思われる。何でも行政が主導するのではなく、市民との参画協働、民間と協力連携することで自由な発想や活動が生まれるからこそ、地域が活性化してくるのだと考える。この「デザイン・クリエイティブセンター神戸（愛称：KIITO/キイト）」は、民間活力の導入による成果、結果を出している事例だと思い、短時間であるが現地視察をした。

この場所はかつて旧生糸検査所。神戸市では有形文化財になるような歴史ある施設を取り壊すのではなく、原形を残して活用することで、大正期から昭和期の風格ある美しい街並みを残している。

企画事業部門の統括マネージャーによると、20代から30代のクリエイターが中心となり、これからのまちづくりや文化事業のあり方や今後の展開、都市計画や整備に関してもデザイン性を意識し、エンターテインメントや文化的な観点からも関わっているということ。行政における評価基準ではかることが難しく、理解されないことも多く、それでも、なぜ前に進んでいるかと言えば、神戸市の中にもエンターテインメントや芸術文化に大変理解がある職員や議員がいて、そういうのバックアップや連携による影響が大きいとのこと。

神戸市と清瀬市は自治体として人口や予算の規模が全く違う。しかし、文化への考え方、取り組む姿勢、若手クリエイターやアーティスト、民間との共同のあり方、行政における魅せるデザインは参考にできることであると考え。この度の行政視察は、清瀬市における芸術文化振興、文化のまちづくりを推進していくための学びとなった。

## 令和4年度 清瀬自民クラブ・清瀬みらい会派合同行政視察 行程

実施日 令和4年11月8日(火) 午前10時00分～正午まで  
参加者 清瀬自民クラブ会派所属議員4名、清瀬みらい会派所属議員1名 計5名(事務局随行なし)  
視察場所 兵庫楽農生活センター  
(兵庫県神戸市)

11月7日(月)

清瀬駅 6:00 → 集合東京駅 8:03 発 <ひかり 503号> → 西明石駅 11:20 着 11:34 発 <JR 神戸線網干行> → 加古川駅 11:51 着 (昼食)

★加古川駅から市役所まで 1.2km 徒歩 15分

加古川市役所視察 13:30～15:30 加古川駅 16:06 発 <JR 神戸線 新快速長浜行> → 三ノ宮駅着 16:35 着 神戸三宮東急ホテル 16:45 頃

11月8日(火)

兵庫楽農生活センター、KIITO/キイト(予定)

★西神中央行に乗車(所要時間 32分) ★タクシーで約 15分

ホテル 9:00 出発 → 三ノ宮駅 <市営地下鉄西神・山手線> → 西神中央駅 → 兵庫楽農生活センター →

★タクシーで約 15分

兵庫楽農生活センター視察 10:00～12:00 → 西神中央駅 → 三ノ宮駅 <KIITO/キイト見学> → 新神戸駅 16:00 発予定 < > → 東京駅 19:00 分着予定

★タクシーを利用(西神中央駅から兵庫楽農生活センターまで)  
バス等の公共交通機関の運行本数が少なく、バス停から 20 分位かかる等、兵庫楽農生活センターの視察時間に間に合わないため、清瀬自民クラブと清瀬みらいの会派 5 人がタクシーを利用する。  
帰路も西神中央駅までタクシーを利用する。